

## 総合計画審議会全体会（第1回及び第2回）の意見や提案

### 1 計画策定の背景等について

- 「計画策定の視点」について、全てをバックカastingで検討していくのか、柔軟にフォアカastingも混ぜていくのか。
- 「計画策定の視点」について、全国の総合計画を見るとバックカastingで策定するとしているが、実際にはフォアカastingの考え方で策定されたものが多く見られる。必ずしもバックカastingにこだわる必要はないので、この視点に関する考え方を再考した方が良い。
- 人口推計・財政推計について、財政等の状況を考えながらバランスをとって計画を策定していく必要がある。
- 尾張旭市での暮らしについて、愛着や誇りのグラフを見ると中学生や高齢者などの日中市内にいる方の得点が高い点が興味深い。市民のプライドを高くするために、市民を市外に出さないということも考えられるため、計画に上手く反映できると良い。

### 2 基本構想について

- こういう「まち」なんだ、こういう生活ができるんだというイメージを伝えることがとても難しい。イメージボードや動画を活用する予定はないか。
- 総合計画の方向性を「もの」から「人」に切り替えるのであれば、庁内の職員の働き方も変える必要があり、企画部門が先頭に立って実施すべきである。それらを社会福祉協議会や自治会に示すことにより、第六次総合計画で表すイメージを共有できるよう仕掛けをしていくことが大切である。
- 長く住んでいると尾張旭市のイメージは湧いてくるが、外の人が「めざまちの未来像」を見たときにどういうイメージを持つのが気になる。「幸せ」や「笑顔」は多くの市町が使っているフレーズであるため、周辺市との差別化をどう図っていくのかがとても難しいと感じた。市外の方にどう伝えるかという部分を計画に含める必要がある。
- 「みんなで支えあう」ことの大切さを基本構想の中にも含めることにより、協働や共生の羅針盤となるのではないか。
- 「つむぐ」という言葉が難しい。素案の説明文だけでは理解ができない。記載内容を改める必要がある。
- 「幸せつむぐ」には、不幸ではないという意味が含められ、セーフティネットのような意味もあると考えられる。「安心して暮らせる」「困難な状況にあっても暮らしやすい」といった部分を対外的な魅力として伝えても良いのではないか。
- 「自分らしく」を多様性と捉えると、LGBTや独身でいたいという意思の尊重と感じ、一方で「子育てしやすいまち」の魅力を高めます」は家族を想起させる。一見すると相反することが書かれているように感じ、どのように両立させるのかに疑問を感じる。
- 「自分らしく」を応援します」の「応援」について軽く見られないように

表現を検討する必要がある。

- 基本方針の各標題について、行政以外の「市民の皆さん」や「事業者の皆さん」からの市民等に対する応援を含んでいるように感じ取ることができないため、文章の構成を再考する必要がある。
- 「暮らしやすさ」に「楽しさ」を加えますとある。高齢者の「楽しさ」のためには、市営バスあさび一号について、東西以外のルートも検討してほしい。また、「楽しさ」につながるようなお出掛け先があると良い。
- 基本目標が部単位で設定されているため、縦割りのイメージがある。横串を刺して推進すべきである。